

おわりに

人工呼吸器の技術進歩や改良によって、より安全で適切な人工呼吸が乳児や小児でも可能となった。人工呼吸中のモニターはそのため大切な指標の一つである。その一方、呼吸音等の聴診所見や胸郭の動きなどの肺理学所見、胸部X線写真での肺容量や無気肺の評価、血液ガスなどの検査所見などもきわめて重要な患者からの情報である。人工呼吸中の患者ではモニターにすべて頼るわけではなく、理学所見、検査所見から得られるデータを総合的に評価する必要がある。また、モニターデータのトレンドによる経時的変化には常に監視を続け、患者の状態把握に努めることは重要である。

文献

- 1) 日本呼吸療法医学会人工呼吸安全管理対策委員会：人工呼吸安全使用のための指針第2版。人工

呼吸 2011 ; 18 : 210-215

- 2) 山森伸二：Cap-one CO2 センサキット TG-920P. *Lisa* 2005 ; 12 : 1103-1104
- 3) Takatori F et al : A novel mainstream capnometer system for non-intubated pediatric patients requiring oxygen administration. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc* 2011 ; 2011 : 1189-1192
- 4) 宮坂勝之：麻酔の安全とカブノメーターの応用，日本医学館，1988
- 5) 増田清夏ほか：経皮二酸化炭素測定装置 SenTec Digital Monitor の信頼性の検討. *日本小児麻酔学会誌* 2011 ; 17 : 145-149
- 6) Tobias JD : Transcutaneous carbon dioxide monitoring in infants and children. *Paediatr Anaesth* 2009 ; 19 : 434-444
- 7) Nicolini A et al : Evaluation of a transcutaneous carbon dioxide monitor in patients with acute respiratory failure. *Ann Thorac Med* 2011 ; 6 : 217-220
- 8) Rodriguez P et al : Transcutaneous arterial carbon dioxide pressure monitoring in critically ill adult patients. *Intensive Care Med* 2006 ; 32 : 309-312

